

# 湖山西人権教育だより

第28号

湖山西地区人権教育推進協議会  
発行責任者 平家 裕一

## 人を大切にしたい思いやりのある 社会・地域となるために



湖山西地区人権教育推進協議会  
会長 平家 裕一

人は、生まれながらにして自由であり、尊厳と権利について平等であるとした世界人権宣言の理念は、人類普遍の原理であり、日本国憲法においても、基本的人権の保障が定められています。  
令和2年度は、新型コロナウイルスの影響を受け多くの事業を中止または縮小するなど、これまでない対応を迫られた結果となりました。  
年度当初の総会も、書面による事業の承認をいただくなど、密着・密集をさせた内容で実施させていただきました。そうした中で、新型コロナウイルスの感染者情報による新たな差別事業が問題視されています。陽性反応が出る、感染経路の把握をするため感染濃厚者の行動履歴を調査され濃厚接触者の状況確認がされます。こうした情報が出ると、遠端に推測による噂話が飛び回

りありもしない情報へと拡大して流れていきます。  
人の心理に基づく行動とつながっているのですが、こうした行動が新たな差別事業となつていくことも認識しなければなりません。  
鳥取県では当初感染者も少なく、県外からの移動者に対してまたは県内在住者でも車のナンバーが県外ナンバーであることから、即外者としての視線が見受けられるなどといった行動もあつたと思えます。  
特に、医療従事者に対する偏見や、家族に対する回避行動は心理的にも受け止めがたいものがあります。感染者の治療にあたりつつある方々の心情を踏みにじる行為でありま

す。また、リモートワークの推奨により、家庭で過ごす時間が増えることによる子供や配偶者への虐待やいじめなど、これまでになかった事象も新たに生まれていると思えます。新型コロナウイルスという目に見えないウイルスに対して、感染者を中傷することにより安心感を得ようとする風潮も生み出されていると思えます。  
そのことにより、一時的に安心感を得られますが、自分を取り巻く環境は決して安全なものとなつていないことも言うまでもないことでしよう。相手に対する思いやりや大切に思う気持ちがあれば、こうした問題は起こらないであろうと思えます。  
SNSをはじめとする情報伝達の発達により、瞬時に情報が拡散されてしまいます。これからの社会は、こうした環境を含めながら考えていかなければならない状況にあるのではないのでしょうか。  
コロナがもたらした私たちの生活環境への影響をしっかりと受け止めて、次の時代へつないでいくことを求めて努めていきたいと考えます。  
引き続き差別のない社会となるために取り組んでいきたいと考えます。

## 小地域懇談会のようす

### 町内会の取り組みについて

#### 「やさしく」の意味

「おばあちゃん」は認知症だった。この作品は、「小中学生の認知症サポーター作文コンテスト」で最優秀作品に選ばれた「やさしくする」ということ」という作文を脚色し、ドラマ形式に教育映画にしたものです。

日本は2025年に65歳以上の約5人に1人が認知症患者になると言われています。認知症という言葉は知られていても、その多くは「どのように接したらよいか」がわからない」という戸惑いのイメージが先行し、正しく理解されてない現状があります。このDVDを見る事で、どう接していったらいいのか、何が出来るのか？を考えさせられるものになっています。ひとりのひとりが安心して暮らしていくために出来る工夫とは何かを示唆していくものです。



#### 白鳥町内会 10/18

○みんながなる事なので自分に置き換えて考えてみる機会になった。  
○大変良かった。認知症についての映像が分かりやすかった。  
○ひとり歩きなど、認知症が4種類あるなどとても勉強になった。



#### うぶみヶ丘町内会 8/29

○この内容のDVDは若い世代にも見てもらい理解を深めてほしい。  
○認知症の理解は必要だと思おうのが良かった。次回は地域住人としての役割などを題材に認知症を取り巻く環境について勉強してもいいと思う。



#### 大学前町内会 11/21

○打ち合わせを念入りしてから司会・進行をすべくして。  
○認知症に対する理解が深まった。日頃からの生活習慣が大切だと分かった。  
○老人にはやさしくする事と、やさしく話しかける事が大切だと分かった。



#### かがやき町内会 12/20

○一方的な講演では実体験の話がないので頭に入りにくい。  
○グループ討議はあったほうがいい。  
○障がい者と向き合った社会づくりが大切だと感じた。  
○人に心優しくしてあげれる気持ちを持つ事が大事だと感じた。



#### あけぼの町内会 10/1

○認知症について知らない事が少し理解できた。進行とビデオ内容が良かった。  
○高齢者が多く参加した懇談会で、マスク着用でのお話でしたが、耳が遠くなった方が多くいたので、大きな声で説明をしてほしかった。  
○認知症の問題は、他人事とは思えない切実な問題で身近なテーマでした。  
○また参加したいです。認知症の方にお会いした事がないので自分のためにも、また認知症の方の接し方などを学ばせていただきます。

## 会員・自治会全体研修会

令和2年6月13日土 湖山西地区公民館

地区人権協議会、各町内会長、各町内会の人権協力員を対象に小地域懇談会開催に向けての事前研修を行いました。

今年度は、認知症について学びました。認知症についての地域の役割、認知症の方がいたらどう接していくのか？など知っているようで知らない事がたくさんありました。そう言ったことを少しでも理解出来るように学習していきました。また、新型コロナウイルス感染・拡大防止の為、小地域懇談会の時間短縮での開催することやグループ討議をしない事、広い会場での開催することなどの確認をしました。今年度はコロナウイルスで先行きが見えない中でしたが、全町内開催をお願いして研修会を終わりました。



令和2年度 「小地域懇談会」を振り返って

今年度は新型コロナウイルスの影響で小地域懇談会の開催は5期内に止まってしまいましたが、その内の1期内に参加させていただきました。
認知症の家族との暮らしをテーマにしたDVDを視聴して人権について皆さんと一緒に考えました。
今回は、感染防止のためグループでの話し合いは止め、時間も短時間で済ませました。そのため、あまり多くの意見を聞き取ることができず、推進員としては少し残念な思いが残りました。
ただ、いただいたアンケートを後で拝見すると、皆さん色々なことを考えながらDVDを視聴いただいたようです。その点は開催した意義はあったと考えます。
今後も、この小地域懇談会が参加いただいた皆さんに意義あるものとなるよう、推進員として努力したいと思います。

推進員 麻木 哲夫

今回視聴したDVDの主人公のように、大切な家族を失ってから、もっとやさしく接していればよかった、もっと何が出来たのではないかと後悔した経験は私にもあります。けれど、その時の気持ち、日々時間に追われ生活しているうちにすっかり忘れ、大切な人への参加は一旦立ち止まりどうするかを考えた機会になりました。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、小地域懇談会はほとんど中止になってしまいました。来年度は、もう少し状況が良くなり顔を話し合えるようになればと願っています。

推進員 井本 佳子

コロナ禍における人権問題の取り組み



鳥取市人権教育推進員 田中 秀幸

今年度の地区人権啓発推進員研修会の人権問題研修会の取り組みはコロナウイルス感染症により差を極めました。
例年早いころでは6月ころから小地域懇談会を始めますが、コロナ禍の影響でスタートにずれ込みました。集中するのには9月11日になりました。一向にコロナが収束せず、むしろ増加傾向にあります。さらに延期された地区も年末、年始にかけてコロナ禍が第3波を迎え中止をせざるを得ない状況になりました。

先を見越して早々に6月ころには地区懇談会を中止とされた地区や町内会もありました。その代わりとして、全戸配布の資料など「認知症相談安心ガイドブック」「市民の皆様への3つの宣言」「コロナ鳥取市からののお知らせ」「鳥取市人権施策基本方針第2次改訂の議題17項目」などを準備され取り組まれた地区や、全体研修として3密回避に配慮しながら「コロナ禍による差別や誹謗中傷」をテーマに実施された地区もあります。

また、小地域懇談会として従来通りの方法で開催されたところ

もありません。しかし全地域開催とはならなかったように思います。いずれにしても小地域の開催方法などについては各地区の主体性で行われております。実施された地区は3密の回避、アルコール消毒、マスク、換気徹底についてはいろいろな方法を考えた苦行心されたおりました。このような事は初めてです。

一方、県外研修ではすべての研修会で、中止になったり、オンライン研修を取り入れて行われたりしましたが、新しい取り組みで戸惑いながらもそれなりに成果のある研修会になったと思います。別の観点で言えば、旅費がかららない利点もありました。今後の研修のあり方についての示唆ともなったのではないのでしょうか。

「遠方にいりながらも講演を受けることができたので便利」という方もおられましたし、「やはり実際に主の顔をみながらの研修の方がよい」と言われる方もあり質問ありました。

次年度の開催についてもコロナ禍の収束が見えない中での開催を覚悟しなければなりません。3密の回避、アルコール消毒、マスク、換気などの感染防止対策を徹底していくことに変わりはありません。できれば実施の方法に工夫を凝らすことも必要だと思います。各地区において広い会場は地区公民館になると思いますので、3密を回避するため公民館を会場とするのも方法であると思います。そして各町内の公民館あるいは集会所で行っていたものを例えれば4つ5つが合同で計画し、3密を避けるために地区の広い公民館会場で開催することもひとつの方法ではないかと思っています。

また野外での研修(フィールドワーク)も方法の一つかと思えます。過去に何度か実施されているところもあると思いますが参加者の方も変わられていることもあると思います。など工夫もあってコロナを避ける方法を考えれば、まだまだあると思います。

人権講演会

演題 認知症サポーター養成講座

本年度の講演会は、認知症サポーター養成講座を行いました。当日は、会員の方をはじめ、26名の方の参加がありました。講師には、医療法人さとに田園クリニック 作業療法士 坂本一郎さんをお迎えしました。小地域懇談会で認知症問題に取り組みたい、今回開催することになった。あいサポーター研修と同じように、認知症の人を見かけたから何かをする、のではなくその人を理解し困っていたらそっと手助けをしていただく応援者なのです。そのため、認知症を理解する必要があります。認知症の種類、ひとり歩きとされる行動など知っているように知らない事もたくさんありました。認知症の人へは、びったりさせない事など、さりげなくゆっくり自然に接するのが一番だと聞きました。認知症の人ともなかなか接することがないかもしれませんが、もしそういう方に会った時の為に、普段から心がけ、接していきける気持ちを持っておかないといけないと感じた講演会でした。

令和2年12月19日 湖山西地区公民館

講師 医療法人さとに田園クリニック

作業療法士 坂本 一郎 氏



人権啓発推進員(2)として、養成講師が確保されました。コロナ禍の中で受講者が少ないのではないかと心配しましたが、たくさんの方参加され安心しました。高齡社会で認知症は地味な人権問題ではありますが、身近に感じられた内容で、受講者は自分の事として考えながら熱心に聞いておられました。まずは認知症の理解をすることです。その為に認知症の種類(アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症、脳血管性認知症、前頭側頭葉認知症)やそれぞれの症状や中核症状、行動、心理症状を学びました。認知症の人のと接し方も学びました。研修では「沐浴」の事を(?)と聞き、学習していました。何か目的をもって歩いており人間としての人権を尊重する意識は伝わっていました。皆さんが認知症という主人から飼育されました。私なら隠してあげたいと思っそうの「養気のある飼育人になりました。これを先回りさんを支えながら見守りをしているのだからと胸が熱くなりました。認知症は一人で見るものではありません。今後には何かお返しをすることはありますか？」と胸をかける事から始めるのはいかがでしょうか。

推進員 小林 由香里

推進員 石田 昇三

令和2年度 湖山西地区人権教育推進協議会

人権啓発推進員

- 小林由香里 さん(R C K)
石田 昇三 さん(あけぼの)
井本 佳子 さん(孝雅前園地)
麻木 哲夫 さん(北四丁目)
★一年間お疲れ様でした★

★人権啓発推進員活動内容★

- 各町内会小地域懇談会
○湖山西地区の各研修会・講演会の運営
○湖東ブロック研修会への出席
○鳥取市・県主催の研究集会や研修会への参加
○人権教育たより編集・発行 など

人権図書購入しました

令和2年度、人権図書を10冊購入しました。図書館コーナーにありまのことで、公民館にお越しの際に是非、手に取って下さい。貸し出しの申請が必要です。公民館までお声がけ下さい。

- ・ほとんと憲法 小学生からの憲法入門
・ほとんと憲法 小学生からの憲法入門 下
・国際連盟憲法を学ぶ
・LGBTなんでも聞いてみよう 中・高校生が知りたい本のひとつ
・ネットと差別意識 フェイク、ヘイト 差別意識
・世界中の子どもの権利をまよめる30の方法 たれびとり
・世界をよこして!
・まみり死 鹿野 浩(スズメの遺児)
・まみり死 鹿野 浩(スズメの遺児)
・まみり死 鹿野 浩(スズメの遺児)
・まみり死 鹿野 浩(スズメの遺児)
・まみり死 鹿野 浩(スズメの遺児)